

四條畷市総合教育会議（平成29年度第5回）
会議録

四 條 畷 市

1 平成30年3月29日 午前10時30分 四條畷市役所本館委員会室において、四條畷市総合教育会議を開催する。

2 出席者

市	長	東 修平
教 育	長	森田政己
教育長職務代理者		山本博資
教 育 委 員		吉田知子
教 育 委 員		竹内千佳夫
教 育 委 員		小田みゆき

3 事務局出席者

理	事	開 康成
政 策 企 画 部 長		坂田慶一
教 育 部 長		西口文敏
兼教育環境整備室長		
教 育 部 次 長		芝田孝人
兼学校教育課長		
教 育 総 務 課 長		阪本律子
教育環境整備室上席主幹		木村 実
兼学校教育課人権教育・教科指導担当課長		
教育環境整備室課長		奥 大輔
都市整備部上席主幹		藤井道幸
企 画 調 整 課 長		板谷ひと美

4 会議録作成者

企 画 調 整 課 事 務 職 員	伊藤 李恵
-------------------	-------

5 案件

- (1) 第3期児童・生徒学力向上3ヶ年計画の策定について
- (2) 教育大綱の改訂について
- (3) その他

<p>政策企画部長</p>	<p>それでは、定刻になりましたので、平成29年度第5回四條畷市総合教育会議を開催させていただきます。</p> <p>本日は、全員のご出席をいただいております。</p> <p>本日は、第3期児童・生徒学力向上3ヶ年計画の策定、また、本市の教育大綱として位置づけております教育振興ビジョンの改訂について、市長と教育委員で意見交換を行うため、お集まりいただきました。</p> <p>ここで一点お詫びがあります。資料の訂正でございます。</p> <p>本日配布させていただいております、教育振興ビジョンの25ページ、いじめ防止対策のうち、四條畷市いじめ防止基本方針（平成29年3月最終策定）を、（平成27年8月策定）に訂正をお願いします。</p> <p>それでははじめに市長から挨拶を申し上げます</p>
<p>市長</p>	<p>おはようございます。</p> <p>本日は年度末の公私お忙しい中にもかかわらずお集まりいただき、誠にありがとうございます。本日が平成29年度第5回ということで年度最後の会になります。</p> <p>案件にあがっております、学力向上3ヶ年計画あるいは教育大綱は、本市にとって非常に大きな計画、大綱となります。議論を活発に深めていければと思っておりますので、よろしくをお願いします。</p>
<p>政策企画部長</p>	<p>すでにご承知のことと存じますが、昨年12月31日付けで辞任された原前教育委員の後任として、1月1日付けで小田みゆき委員を本会議の新メンバーとしてお迎えしておりますので、ご報告申し上げます。</p> <p>小田委員、一言ご挨拶をお願いします。</p>
<p>小田委員</p>	<p>小田みゆきです。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>政策企画部長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、案件の方に入らせていただきます。市長、進行をよろしくをお願いします。</p>
<p>市長</p>	<p>それではさっそく案件に移らせていただきます。</p> <p>次第に掲載の案件に従い、意見交換を行いたいと思います。</p> <p>それでは、まず、第3期児童・生徒学力向上3ヶ年計画の策定に</p>

教育部次長

ついて、事務局から報告をお願いします。

第3期四條畷市児童・生徒学力向上3ヶ年計画につきまして、ご報告させていただきます。

まず、はじめに資料の確認をさせていただきます。A3横置き第3期四條畷市児童・生徒学力向上3ヶ年計画（概要版）1部とA4ホッチキス止めの第3期四條畷市児童・生徒学力向上3ヶ年計画（全体版）冊子1部となります。よろしいでしょうか。

前回の総合教育会議におきまして、第2期3ヶ年計画の取組みの効果検証を踏まえた第3期3ヶ年計画策定の趣旨、方向性を第3期計画の概要版を資料として、経過報告させていただきました。

今回、教育委員会において、第3期四條畷市児童・生徒学力向上3ヶ年計画の策定が完了しましたので、改めてご報告させていただきます。

全体版を使って説明させていただきます。表紙をおめくりください。

1ページには、第1期、第2期、これまでの主な取組みを簡単な図にまとめ、第3期への繋がりを示してあります。

2ページには、育成すべき資質、能力の設定の趣旨を掲載しました。

これまでの取組みにより、基礎的、基本的な知識や技能の定着は、着実に向上が図られてきていることが確認できました。しかし、思考力、判断力、表現力の育成が求められる全国学力・学習状況調査の活用問題、いわゆるB問題の調査結果には、小、中学校ともに課題があると分析しております。

そこで、次期学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、その背景にある新しい時代に必要となる育成すべき資質、能力をもとに、子どもたちにつけたい3つの力を設定しました。

それが学びに向かう力、活用できる知識、技能の習得、考え判断し表現する力となります。これら3つの力を育成することを通じて、第2期計画における課題の解消に努めていきたいと考えております。

3ページから5ページには、変容をみとる視点として、取組みの成果と課題を明確にするための客観的な指標を示してあります。

6ページから10ページには、これまでの取組みの効果検証として、全国学力・学習状況調査などの客観的なデータをもとに、現状

	<p>と課題を掲載しています。</p> <p>11ページから13ページには、これらの分析を踏まえた学力向上の4つの重点取組みを掲載し、最後の14ページには、その取組みを支える市教育委員会の支援体制を掲載しております。</p> <p>第3期四條畷市児童・生徒学力向上3ヶ年計画につきましては、4月以降、校長会、教頭会をはじめ、各校の学力向上担当者等で構成する学力向上プロジェクトチーム会議を通じて学校現場との共有を図り実践につなげていく予定です。</p> <p>なお、第3期計画をより実行性のあるものとして効果を上げるため、指導主事の指導力向上と学校現場への授業改善等についての指導助言の充実、そして、教職員が余裕をもって子どもたちと向き合い、子どもの理解を深め、教材研究に取り組む時間の確保に努めてまいりたいと考えております。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>ただいま事務局から全体を通して説明、報告がありました。</p> <p>ここで、新たな3ヶ年計画についての思いやお考えについて伺いしますが、いかがでしょうか。</p>
教育長	<p>まず初めに、私から申し上げたいと思います。</p> <p>この学力向上3ヶ年計画という名前を使い始めてから6年が経過しようとしています。先ほど、教育部次長から説明があったように、1期3年間、そして2期3年間で取り組んでまいりました。取り組んできた柱は大きく変わっておりません。</p> <p>次期、3期めもこれを引き継ぎ、さらに深めていくということで、教育部内に周知しているところでございます。</p> <p>平成32年度から新しい学習指導要領となります。そのなかで、新しい時代に必要となる資質、能力の育成、という言葉が繰り返し出ております。教育現場の環境づくりは、質、量ともに進めていかなければなりません。どんなに素晴らしい制度や取組みであっても、一部に過剰な負担がかかっている状況であれば、継続して同じように取り組むことは非常に難しいと思います。</p> <p>今、国で、持続可能な、サステイナブルという言葉がよく取り上げられております。学校も同じだと思うのです。我々は、授業改善、家庭学習、生活習慣、そして、フォローアップ対策、これらを各中学校区において、小中連携一貫教育と一体化させながら9年間を見通した計画を引き続いて出させていただきます。次期学習指導要</p>

<p>市長</p>	<p>領にもつながる形で、何を学ぶか、どのように学ぶか、またそれをする事で何が出来るようになるか。</p> <p>こういった、将来にわたって生きる力をつけていきたいと考えて第3期学力向上3ヶ年計画を策定させていただきました。</p> <p>以上でございます。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>ただいま、教育長からお示しのとおり、学力向上3ヶ年計画で学力という言葉を使っているものは、いわゆる字面上の学力だけではなく、生きていく力も含めた新しい時代を視野に入れた計画を策定いただいたと思います。</p> <p>その考えは、学力も大事だけれども、学力だけではないということも市民の皆様から常々聞くので、素晴らしい計画だと思います。</p> <p>他にありましたらお願いします。</p>
<p>山本職務代理者</p>	<p>市の課題として、思考力、判断力に課題があるといわれましたが、新しい学力指導要領の改訂についてもそうですが、思考力、判断力の課題は本市に特化したものではなく、日本全国の大きな課題です。それをそのままにしておくわけにはいきませんので、四條畷市なりの取り組みをし、子どもたちが生きる力を身に着けていく。主体的な学びのなかでいかに身に着けていくのかが大きな課題だと思いました。</p> <p>どうすれば解決できるのかというと、教育の中身に関係していると思います。なかなか簡単には片付かない問題で、たとえば、計画の6ページで全国学力・学習状況調査の結果を経年比較していただいています。平成26年の小学生が平成29年に中学生になっていかに伸びているのか、ということがわかります。すごく息の長い取り組みをしてきた結果だと思います。</p> <p>私が一番注視しているのは、第1期学力向上3ヶ年計画から継続している、計画の1ページにある、小、中学校すべての学校で授業のはじめに子どもたちにめあてを認識してもらう取り組みです。非常に小さな取り組みですが、積重ねが先ほど言ったような学力向上につながっていると認識しております。</p> <p>これらも踏まえ、先ほどもいいました判断力、思考力を高め、主体的に学ぶためには、やはり気の長い教育活動にしていかなければなりません。</p> <p>それを支えるのは、もちろん現場の先生もそうですが、先ほども</p>

<p>市長</p>	<p>言われた指導主事の力量をいかにつけるかが大きいと考えます。</p> <p>これが、後ほどの案件にもありますが、教育振興ビジョンの教育センター構想の部分にも関係していると思います。ぜひ先生方に力量を身に着けていただき、意識的、主体的に先生方が授業、教育活動をするなかで子どもたちの学びにつなげていただきたい。息の長い取組みは、四條畷市であるからこそできると思います。</p> <p>以上です</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>計画の1ページに示されている、第1期、第2期、第3期を見させていただきますと、第1期から掲げているものをずっと継続して位置付けているので、今、おっしゃった息の長い取組みが重要であると感じ取れると思います。</p> <p>えてしてたくさん取組みに走り、どれもこれもが、となるよりは、第3期においては新たなものが付け加わるというより、第2期までのものをそれぞれ深めている取組みであるように思います。</p> <p>しかも、先ほど山本職務代理者がおっしゃったように、6ページで結果がしっかり出ているので、各取組みを深くしていると思います。教育委員の皆さんが一番よくご存じのとおり、教育は時間がかかるものですので、継続した取組みをやっていかないといけないということが再確認できたと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>この他に委員の皆さんからご意見はございますでしょうか。</p>
<p>竹内委員</p>	<p>私からは、学力向上の重点取組みのなかで、授業づくりが大きく取りあげられていますが、授業は教師にとって昔から命であるといわれているように、毎日毎日、あるいは一時間一時間を大切にしないではいけないと思っています。そこで、授業づくりのところできくつか書かれてありますが、私は、やはり、創意工夫のある子どもたちにとって魅力のある授業をめざしてほしいという思いがあります。</p> <p>それは、指導法の工夫であるとか、体験学習を取り入れたり、板書を工夫するなど、子どもたちが学ぶ喜び、できる喜びを体感できる創意工夫のある授業であってほしいと思っています。</p> <p>そのためには、山本職務代理者が言われましたが、指導力、資質の向上がものすごく大事になると思います。</p> <p>以上です。</p>

<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>今、お二人がおっしゃったことは連動していると思います。各個人の創意工夫というものがあながらも根底で全教員が同じもの、めあての徹底、首尾一貫をし続けて、プラスアルファとしての創意工夫があるのかなと思いました。</p> <p>他の委員の皆様、ご意見等ございますでしょうか。</p>
<p>小田委員</p>	<p>6年間の計画のなかで、成果をあげられているひとつは、授業がどうしてもしんどい子どもたちや、わからない、ついていけない子どもたちをきちっとフォローアップされていることだと思います。限られた時間で、たくさん子どもたちを全員引っ張ることは教師の理想ですが、一人の子が10分でできることが、20分かかる子も絶対いらっしゃるので、その子を放課後の学習会や土曜日フォローアップ教室でしっかりと救ってあげる取組みをされた結果だと私は思っております。どうぞこれからもこの取組みを頑張ってもらいたいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。他にございませんでしょうか。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>先生方も日々の授業や事務で忙しいなか、子どもたちを見ていただいてこうした結果が出ています。小中連携、一貫教育で小中との研究授業などにも時間を費やしていただいているなか、先生方の助けになるような設備投資に力を入れてほしいと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます</p> <p>次の教育大綱の部分につながるお話かと思えます。ありがとうございます。</p> <p>もしその他にご意見がなければ、第3期児童・生徒学力向上3ヶ年計画の策定についての議題を終了したいと思います。</p> <p>続きまして、次第2の教育大綱の改訂に入る前に、今、吉田委員からお話がありましたけれども、平成30年度当初予算における教育部分の予算について、簡単にお話させていただければと思います。</p> <p>教育長からも、これからの新しい時代を生きていく力という部分もございましたし、他の委員からも先生たちが授業づくりに集中できるような環境であったり、あるいは最後に吉田委員からも先生たちの忙しさに対する設備投資、子どもたちに向き合う時間を増やし</p>

<p>企画調整課長</p>	<p>ていく、そのような背景を受けまして、平成30年度は教員の皆様の働き方改革に取り組みやすいような施設投資ですとか、整備に比較的大きな予算を割かせていただいた状況です。</p> <p>また、生きていく力、新しい時代に対応していく力という意味でも、図書館や学校図書館の充実であったり、あるいは英語教育でも比較的大きな予算を取らせていただいています。そうしたなかで、先生たちがICT技術を用いながら、日々の忙殺されている業務をなるべく効率的に行うことができれば、結果として授業も工夫できる、子どもたちにも向き合える、するとフォローアップする子どもにもより行き届くことにつながるという思いから、今回は予算編成をさせていただいております。</p> <p>そのうえでの教育大綱の改訂になりますが、まずは全体の説明を事務局からお願いします。</p> <p>平成29年11月21日開催の第4回総合教育会議において、本年3月に予定する教育大綱の改訂に向けた方針とスケジュールを説明させていただきました。</p> <p>そのなか、子どもたちの育みに最も深く関わる家庭や地域に向けて、教育委員会と市長部局が協働で掲げる教育の施策目標を、わかりやすく、浸透しやすくお示しするため、施策のカテゴリや並びの整理について、皆様からのご意見をいただいたところです。以降、市長部局、教育委員会で協議を重ね、今般、施策の整理と内容の修正を終えましたので、その概要を説明させていただき、本日の会議のなか、市長と教育委員皆様でご協議の後、策定に向けた手続きに入らせていただきます。</p> <p>後ほど、市長部局、教育部ごと、改訂の概要をご説明させていただきますが、まず、全体を通しての大きな変更点といたしましては、就学前教育から学校教育、社会教育へ、ライフステージごとに施策を並びかえ、最後にハード整備を据えるよう、体系を整理し直しております。また、レイアウトやフォントを統一し、視覚的に優しい色調に修正しております。</p> <p>次に、内容に関してでございます。</p> <p>おてもとの資料の1ページをご覧ください。</p> <p>まず、策定の主旨についてです。</p> <p>今回の改訂に合わせ、就学前に関する記載を、より教育に特化した内容に変更するため、子どもの育ちや学びの連続性の確保と就学前から義務教育卒業後までの系統立てた支援について、その必要性を明記するよう改めております。</p>
---------------	---

<p>教育総務課長</p>	<p>4ページをご覧ください。</p> <p>前回までは、子ども・子育て支援に向けた全体的な環境整備を含めるため、子ども・子育て支援事業計画に掲げる施策のうち、教育と連携を図るべき施策を記載しておりましたが、今回の改訂では、0歳から小学生、さらには中学生までの一貫性、連続性のある発達を見通した教育の推進に主軸を置くべく、乳幼児教育保育アクションプランの内容をより詳細に説明するよう変更しております。</p> <p>以上が市長部局分の変更内容となります。</p> <p>なお、教育部が所管する以降の説明は、教育総務課に交代させていただきます。</p> <p>続きまして、教育の大綱に位置付ける教育振興ビジョンの改訂に関し、教育部が所管する主な改正内容をご説明いたします。</p> <p>まず9ページをご覧ください。</p> <p>9ページから11ページについては、平成30年度から平成32年度の3年間において進める第3期四條畷市児童・生徒学力向上3ヶ年計画について掲載しております。</p> <p>第1期の計画から取組みの核としてきた授業改善、家庭学習・生活習慣、フォローアップ対策、小中連携、一貫教育の4つの柱を掲げ、第2期では、特に授業改善と家庭学習の取組みに重点を置き、各校の実践交流を通して市域全体の取組みの推進を図りました。第3期については、これらを継続しながら、さらなる質の向上をめざして、一層の研究を図り、学校における日々の教育活動を改善、発展させていく方向で策定しております。</p> <p>13、14ページについては、未来に向けた資質・能力の育成として、英語教育の推進、ICTを活用した授業作りやプログラミング教育など新たな学習項目の取組みについて記載しております。</p> <p>次に25ページのいじめ防止対策については、市と教育委員会と学校が一体となって、いじめ、不登校の未然防止、早期対応に取り組むため、それぞれの役割について記載しております。</p> <p>27ページについては、新たに、ソフト面の教育環境整備として、学校現場の業務の適正化並びに学校の指導、運営体制の効果的な取組み内容を記載しました。主な内容は、教員の従来業務等の見直しや業務負担軽減、また、学校指導、運営体制の効果的な取組みの検討内容として専門性のあるスタッフの配置や、学校閉庁日の設定、35人学級の加配教員の配置などを掲載しております。</p> <p>29ページからは、四條畷市の社会教育について分野ごとに記載しております。</p>
---------------	---

<p>市長</p>	<p>47ページから51ページでは、教育環境整備計画の推進について、教育環境整備計画の策定から平成29年度までの経過及び計画の一部修正の方針、教育整備に関するアンケート、南中学校敷地内の活断層調査、公共建築物状況調査、劣化調査の結果を踏まえ、今後小学校の再編整備等について方針を定める内容記載し、修正を行っております。</p> <p>改正の概要は以上でございます。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>市長部局で取り組むところと教育委員会で取り組むところの説明がありました。まずは冒頭、私から、総合教育会議のなかで、もとの教育大綱、教育振興ビジョンは資料としては充実したもので、他市に比べてわかりやすく思いのこもったものになっております。さらに、これを市民の方、保護者の方に読んでいただければという思いを持って、中身というよりも枠組みであったり見やすさをよくしていくことを意見交換させていただいて、もくじの並べ方や統一的なフォーマットなど、私としては非常に読みやすいものになったと思います。分野について種々ご意見等あるかと思うのですが、これはというご意見があればお願いします。</p>
<p>山本職務代理者</p>	<p>今、市長が言われたように、私も気付いていなかったのですが、かつては、教育振興ビジョンを教育委員会で作っているときに教育委員会事務局の担当を並べていたという印象がありましたので、ライフステージで作られるようになって見やすくよくわかりやすくなってよかったなど。</p> <p>色調も市長の思いがあって、前は濃い部分もあったのが、見やすくなりました。</p> <p>中身につきましては、多岐に渡っていろいろな内容があると思うのですが、これから平成32年度までのビジョンを見ますと、学習指導要領の改訂もありますが、先ほど市長の話がありましたが、英語教育の充実が一番大きいことであって、もう一つがいじめの問題も絡む道徳教育、それとICTの3つが3年間、市として取り組んでいかなければならないと思います。</p> <p>英語教育は、ALTも含めて、市独自の予算をつけていただいて、充実した教育ができると思います。今までの学習指導要領であればそれで十分なように、大阪府のモデル校指定を受けた市でもあるので、先進的に取り組んでいると思いますが、今後、小学校で教科化されていくなかで、さらに新しい取り組みをしていかなければなら</p>

市長	<p>いと思います。</p> <p>道徳については、いじめの問題がありますので、それについては具体的な話が後にあるかもしれませんが、今、大阪府全体で取り組んでいる、小学校の道徳教育をどうするのか、我々も教育委員会研修で教科の勉強をさせてもらったのですが、非常に難しい部分があります。さきほど言ったように、現場の先生方の力量を高めていく、教育委員会の指導主事の道徳に関する力量を高めていかないと、なかなか教育活動はうまく回らないのかなと思っています。</p> <p>最後のICTについては、プログラミング学習が入りますが、14ページ、プログラミング学習は機器を触らなくても、先ほどの思考力、判断力の学びのなかで論理性を身につければいいとなっていますが、やはり実際に機器に触る、触らないのでは結果の検証、子どもたちの反応は全然違うと思うので、機器を揃えることは大事かと思っています。</p> <p>同じくICT関連で、27ページに、ソフト面での教育環境の整備で働き方改革、市長が教育予算を組んでいただくときの一つの柱になっていると思いますけれども、校務支援システムの導入があります。今年度、田原でモデル実施をするということですが、やはり、本格的な実施が必要かと思っています。</p> <p>昨日、大阪府の教育長が教員の長時間労働をなくすということで、年間の時間外労働時間を360時間以内とする、と記者会見で発言されていましたが、やはり機器やシステムを導入しなかなかなかできないという危惧を持っています。来年度予算でICT関係は相当削られたので、また機会がありましたら、機器の整備、校務支援システムの整備等にご尽力いただけたらありがたいと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>お示しのとおり、英語教育は、おそらく他市と比較しても非常に様々な取組みがあって、四條畷市としては誇れるものがあるのではないかなと思います。それをさらに推進していくということで、今年度も拡充させていただいているところでございます。</p> <p>ICT環境については、大学時代にプログラミングをやっていた者としては、触ってみてプログラミング的な思考で考えて実行して、それが起動したときは喜びを感じる部分がある。それでどんどん作っていく、作れないものはありませんので、自ら学んでいく意欲をかき立てる意味でも機器に触ることは非常に重要なことと考えています。</p>
----	---

本市の限られた予算の枠で、現在は i P a d が導入されていますが、i P a d なのかタブレットなのか、タイピングをするとしたらキーボードが打てるパソコンなのか、やはり、2 i n 1 のタブレットにキーボードを合わせたものなのか、それが小学校ではどうなのか、中学校はどうなのかという、全体の計画と申しますか、方向性が確定していない段階でパソコンやタブレットを導入してしまうと、後で重複する予算が懸念されますので、一貫した、たとえば、四條畷市としては2 i n 1 を全員が使えるようにする方向性が決まれば私としても予算化をしやすいと思います。

本年度は平成32年度から必ずやらなければならないのであればそのあたりの整理は必要になると思います。

校務支援システムの件ですが、田原小学校での試行実施は、先ほど山本職務代理者からあった目標としての残業時間の削減があつてという考え方もあると思いますが、私としては市役所全体の働き方改革を行っているなかで、まず、残業をいくらか減らすことを最初に目標として掲げてしてしまうと、本当に必要な業務も目標達成のために削減されることが懸念されるので、今年度は、まずは実態、状況把握をする、プラス、実際にシステムを導入したらどれくらい軽減するかわかれば、それに基づいて目標値が立てられるかなど。それが確かな一歩になるのが平成30年度、実際に効果があれば平成31年度に本格的な取組みになるという考えを持っているところです。

そのほかに何か意見がございましたらお願いします。

教育長

今の山本職務代理者の意見に追加する形になるのですが、市での働き方改革で、今年度に検証を重ねてどのような方向で実施するか検討する平成30年度に入っていくのですけれども、学校における働き方改革が大事な部分だと考えております。そこで、27ページの⑤学校の指導、運営体制の効果的な取組みの検討のなかでの、長期休暇中の学校閉庁日の設置、の項目を今回あげさせていただきます。これは、今回、教育委員会としても進めていきたいと考えています。

先月の教育委員会定例会のなかでも私から出させていただいており、試行になるか全面実施となるかは、現場と議論を重ねながら、と思っています。また、委員の皆様の意見も聞かせていただいているところであります。

	<p>もう一点、28ページ、教育センターの充実についてですが、子ども支援グループの来年度予算については現状維持ですが、平成29年度は一定、成果を上げてきたと思います。不登校、引きこもりの子どもたちの支援は、従来あったものから比べれば随分と進んできたのではないかと考えています。さらに、来年度から機構改革で教育センターが課として独立するので、さらに充実したものにしたいと思います。</p> <p>そのなかでも、先ほどからも出ておりました、教員の指導力向上、あるいは指導主事の指導力、教育研究、研修としての機能も進めていきたいと考えております。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>お示しのとおり、働き方改革は様々なアプローチ方法があると思います。私は教職員経験があるわけではございませんので、現場の先生方、教育現場をご経験された方がご存知かと思しますので、実際に即した方法で、なるべく先生方が子どもに向き合える時間が増えていけばいいと思います。</p> <p>教育センターにつきましても、ただいま教育長がおっしゃったとおり、一つの組織として確立していきますので、四條畷市は不登校のお子さんが少ないかというところではございませんので、こちらにも力を入れながら課題の解決につなげていきたいと思っております。</p> <p>その他にご意見ございませんでしょうか。</p>
山本職務代理者	<p>市の教育振興ビジョンのなかで、市独自の取組みとして優れたものに食育があると思えました。この間、努力していただいたおかげで他市にない誇れる学校給食センターと思っております。それで、16ページ、17ページの部分ですが、センターの中に農園ハウスを作って、できるだけ地場の野菜を使っている取組みですので、子どもたちに安全安心な食べ物を与えることは、かつては異物が混入したとか、悪い例が取り上げられていましたが、本当に学校給食センターの職員に努力していただいている印象があります。</p> <p>機材を含めて、学校給食センターをさらに効率よく運営できればいいと感じております。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p> <p>おっしゃるとおり、子どもたちの体を作る食べ物で、大人になったときに、食育がなければいわゆる決して体にいい成分が含まれて</p>

<p>竹内委員</p>	<p>いない食べ物ばかり食べてしまって、体調を壊してしまう社会の現実がありますが、子どもの頃から安全安心でしっかりとした体を作る食に関する知識が高まっていくことは、私たちにとっていいことだと思います。</p> <p>ほかにご意見ございませんでしょうか。</p> <p>7ページの就学前教育の充実で、私も校長時代のことを思い出しながら少し述べさせていただきたいと思います。</p> <p>小学校で入学者の保護者と接する機会は、就学前健診も若干ありますが、初めて直接話ができるのは、入学説明会だけだと思います。小学校は、それをすごく大事にしてきたわけですが、一番保護者の方に言ってきたことが、家庭の教育力向上にもつながることですが、しつけの三原則、はい、という返事、靴をきちんと揃える、ありがとう、ごめんなさいといった様々なあいさつをする。小学校にあがるまでに頑張ってくださいと話してきました。</p> <p>それともう一つが3つの気の心。やる気と根気と負けん気というその3つの気を大事にしてくださいと語りかける。保護者の方も4月の入学式を迎えるまでに、子どもに語りかけていただくよう、私も入学説明会を大切にしてきたのですが、そんなところももっと大切にできればと思うところです。</p> <p>以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>小学校に入学するお子さんの保護者の皆様は、期待もありながら不安もあるということを私も聞いております。そうしたなかで、安心を与えていただけるような取組みをされていると思います。</p> <p>他にご意見等ありませんでしょうか。</p>
<p>吉田委員</p>	<p>26ページの不登校対策、豊かな心の育成ですが、不登校0をめざすのはとても難しい課題だと思います。不登校になる理由は、ひとつではなく、障がいからだったり、突然、学校に行きたくなくなるということもあるし、あるいは学校内でのいじめ、そういった様々な要因から起きているので、それに対応する先生方もすごく時間を割いていただいていると思います。</p> <p>学校の先生になられる方は学校が好き、学校生活が充実されていたという方がなれることが多いと思うので、自分の体験から子どもたちに接するなかでは、そういう子どもたちばかりではないということもわかっていただきたいという保護者の気持ちもあるし、そ</p>

<p>市長</p>	<p>れがとても難しいのかなと保護者の立場から思っています。そういう観点からも学校の先生方、教育センターの方々のこれからの対応はとても大事になると思います。</p> <p>本当におっしゃるとおりだと思います。</p> <p>画一的な取組みで不登校がゼロになるということは決してなくて、26ページにも書いてあるとおり、細やかに一人ひとりの状態をしっかりと把握することが非常に大切になると、私自身も意見交換をするなかで思うところです。</p> <p>教育センターの取組みについては、教育長も方向性を色々と考えておられると思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>教育長</p>	<p>これまでよくいわれるのですが、アウトリーチとって、教育相談を電話で受けて動くのではなく、教育センターの職員がそれぞれ各小中学校へ回りながら意見交換をするなかで、対応すべきことをしっかりと把握し、教育センターで完結するのではなく、子どもと担任、あるいは子どもと学校がどのようにつながっていくか、または保護者とどうつながっていくか、それを橋渡しする取組みが以前と比べて成果が出ているのではないかと。もちろん、学校に行けない子どもたちが様々な理由でいらっしゃるので、そのなかで個々に対応した形で成果をあげてきていると思います。</p> <p>今後も、このような連携した取組みを継続していきたいと考えています。</p>
<p>市長</p>	<p>学校の先生に加えて、本市全体が青少年の健全育成の観点から、平成29年度ですと、大阪府の引きこもり事業などに携わっておられる講師をお呼びして団体の方々に聞いていただいたり、市をあげても取組みをしているので、教育現場、教育センター、市全体と様々な角度から、それぞれの方に合ったサポートができる体制を今後も充実していくべきだと思いました。</p>
<p>小田委員</p>	<p>ちょっと話が外れますが、四條畷というまちを子どもたちがしっかりと勉強する、24ページ、郷土を愛し、郷土を誇れる子どもたちの育成をめざします、これは道徳教育とも関連していて根幹だと思います。先日のオリンピックの時に、カーリング女子の吉田選手がスピーチで、「こんな小さなまちで夢は実現できないと思っていたけれども、このまちで生まれ育ったことでメダルが取れた、夢が現実になった」といったことにすごく感動しました。だから、ここで</p>

<p>市長</p>	<p>育つ子どもたちが四條畷で育ってよかった、勉強してよかったという市になればよいと思います。私自身もここで育ててもらいました。小さい時から四條畷に住んでいますが、委員を引き受けさせていただいて、飯盛城のことを知りました。飯盛山は、何回登ったというスポーツの感覚があって、飯盛城があったとはわかっていたのですが、あまり知らなかったのです。子どもたちがいっぱい勉強して、四條畷をよく知ってもらって、四條畷を楽しんで、学力ではなく生きていく力になると思います。どうぞこれをもっと頑張ってもらいたいと思います。</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>私も、所信表明だと思うのですが、着任にあたり、子どもたちがふるさとを誇りに思えるようにするということを述べており、私自身、東京、海外で働いた経験があって帰ってきたのは、やはり四條畷が好きで、このまちがよりよくなっていくことが自分自身の幸せにつながるという思いで戻ってきたわけです。今、委員がおっしゃったことはしっかり生かしていきたいと思います。</p> <p>それに合わせて、四條畷市は歴史があることを知っている人は多いのですが、それが何か、実際に詳しいかということもそうでもない。</p> <p>小さいお子さんたちと話をしていると、歴史があるということは知っています。けれども、そこで止まっているので、もう少し知っていただけたら興味を持ち、好きにつながる。その郷土学習を土曜日フォローアップ教室とかでも行っていると認識しています。</p>
<p>教育長</p>	<p>市長もこのまちで育って、そして私もこのまちで生まれ育った。バックボーンがしっかりしているのは大事なことかなと。市長が東京に行かれて、その時にふるさとを思い出された。私も就任した当初の所信表明で、最後に原稿にはなかったのですが、帰ってきたときに、山がまず電車の中から見えることから、ふるさとの山に向かって言うことなし、ふるさとの山はありがたきことかな、という詩を紹介させていただき、それがあからこそ生きていける、というようなことを述べさせていただきました。小学校3、4年の社会科で郷土を勉強する時間がありますので、現場の先生方が、わたしたちの四條畷の副読本を使って授業を進めております。我々の頃と違い、漠然と思っていたものがしっかりと勉強できていると思います。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p>

<p>山本職務代理者</p>	<p>そのほかに何かございますでしょうか。</p> <p>先日、小学校の卒業式に行かせていただいて、その時に校長先生の話がありましたが、6年生の卒業する人数と1年生の入学する人数を比較すると、その学校は半分以下でした。だいたい、四條畷市全体でいうと、40%から50%ぐらい減っていると思います。平成25年の調査だと思いますが、平成25年から平成35年の大阪府の学校数でいうと、3分の1の小中学校含めた学校がいらなくなるという実態を大阪府教育庁が出しています。</p> <p>やはり35人学級の要望をぜひ大阪府の市長会を通じて国にあげてほしいと思います。市単独で35人学級にすることについては、前回の総合教育会議で教員の質から難しいということを申し上げたので、ぜひ制度化してほしいというのが1点です。</p> <p>もうひとつは、教育環境整備計画に触れていないのですが、ぜひ市の抱えている3つの課題、校区のねじれ、老朽化、小規模校の解消になんとか早いうちに取り組まないで、6年間で生徒数が半数以下になっているので、今の小学校1年生の子どもたちが中高学年、中学校にあがったときに、さらなる小規模化になるという懸念を持っています。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>お示しのとおり、入学者数と卒業者数の比較でもよくわかると思うのですが、たとえば、成人式でも市民総合センターの定員が700席くらいですが、一昔前であればセンターに入りきらない数だったのが、今は、成人を迎えられる方がこの間はだいたい600人から700人くらい、新生児が300人から400人で、約半分になっている状態です。これは本市だけではなく、日本全体が抱える課題だと思っております。そのなかで、特に平成30年度、平成31年度と、私としても、教育環境を整備することは、最も大切な政策、施策のひとつと考えており、どの取組みにも増してしっかりと教育委員会の皆様と連携しながら、市民の皆様が望む、かつ、教育環境としてもよりよいものを導き出せるように引き続き来年度以降も頑張っていきたいと思います。</p> <p>もし、他になれば私から。</p> <p>教育環境の整備については、現在、全ての公共施設の劣化度を調べている状況にあります。その施設を建て替えるべきなのか、あるいは、リフォーム等をして長く保たせることができるのかという指</p>

<p>教育長</p>	<p>標であったり、今年度実施したアンケート等をもとに、様々な観点からアイデアを出し、評価して、平成30年度に一定の形とするという点です。もう一点が、冒頭で訂正が入りましたが、25ページで、いじめ自体が社会全体の課題になっているので、いじめ防止対策関連の法律があり、それに動きがあったと思うのですが、それについて教育長から教えていただきたいと思います。</p> <p>その前に、私も現場を預かっていた、7年間校長をしていた時に常に思っていたのが、子どもの命にかかわる事案があってはならないと。学力の向上もそうですが、教育振興ビジョンのトップに、子どもがイキイキワクワクという標語、ひとつづくりはまちづくり、人と人との絆づくりという文章をあげております。</p> <p>今、市長からもありましたように、いじめ防止対策についてですが、国の動きは、依然としていじめがなくなる、いじめほどの学校でも起こりうるものであり、このことはすべての子どもに関係する人権にかかわる重大な問題なので、本市では平成24年に教育委員会でいじめ問題対策委員会条例を制定し、そこから取り組んでいます。また、一方で、平成23年の10月頃だと思うのですが、大津のいじめ事件があり、中学の男子生徒が自死したことで、その後も全国的にいじめを原因として自ら命を絶つ事件があり、平成25年6月に国でいじめ防止対策推進法が公布されました。これに基づき、いじめ防止基本方針が策定されました。</p> <p>そこから取り組みが進んできたところですが、本市でも毎年調査を実施しているところ、学校によっては、現状の認識では、単なるいたずらとか遊びとか、捉え方の違いがあり、やはりしっかりやらなければならないというなかで、去年、平成29年3月に国からいじめ防止等のための基本的な方針の改訂と同時に、いじめの重大事態の調査に対するガイドラインが出されました。それから一年が経過しているので、本市としても、大阪府の動向を気にしながら思っていたのですが、喫緊の課題であることから、国の出された方針、あるいはガイドラインに従った形で見直しが必要であると考えます。すでにこの法律によってそれぞれの学校において基本方針を作ることが義務化されていますので、毎年それぞれの学校の状況に沿った形で見直しされているのが実情であることを付け加えておきます。</p> <p>本市においては、平成29年の3月の国の動きを受けて見直しを行って改訂が必要だと思いますけれども、そのあたりのところ、市長のご見解はいかがでしょうか。</p>
------------	--

<p>市長</p>	<p>お示しいただいたのが、平成29年3月に国で基本方針とガイドラインが出ているというのと、本市としても基本方針があるけれどもそれを一定見直していくというお話であったかと思えます。</p> <p>いじめというと市域全体の問題となってくることから、教育委員会のみならず、我々市長部局としても考えていかないといけない。今、教育長がおっしゃられたように枠というものもあるけれども、実情に合わせて改訂というのであれば、市長部局としても改訂していく必要があるという思いです。そういうことでよろしいでしょうか。</p>
<p>政策企画部長</p>	<p>今のご議論も踏まえまして、本市の場合、いじめ問題の基本方針につきまして、健康福祉部と調整のもと、改訂の準備にあたらせていただこうと思えます。併せまして、本件につきましては議決すべき計画に関する特別委員会に付する内容であると考えられるため、議会への報告と事務的な手続きについても進めていきたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。</p>
<p>市長</p>	<p>はい、わかりました。ありがとうございます。本市の大きな基本方針、基本計画の改訂に関わる問題ですので、議会の皆さまにも議決すべき計画に関する特別委員会についても調整させていただきながらということになるのかなと思えます。国の方針に従って、本市としても改訂を進めていければと思います。</p> <p>その他、教育振興ビジョンについて何かございませんでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>それでは次第のその他の案件に移らせていただきます。</p> <p>教育環境整備室より、四條畷南中学校休校に伴う諸課題の進捗状況について、ご報告いたします。</p>
<p>教育環境整備室課長</p>	<p>まず、制服の補助につきましては、現四條畷南中学校1、2年生の保護者を対象に、11月末から2月末までの間、冬服等の10品目について補助申請の受付を行い、対象者142人すべてが申請を行われました。残りの夏服、水着等4品目については、4月以降に学校を通じて対象保護者あてに案内を送付する予定です。</p> <p>次に、通学につきましては、2月27日付けで4月からの通学に</p>

	<p>係る詳細な内容を記した遠距離化に伴う通学定期券購入及び補助に関する手続きのご案内を対象保護者あて通知しました。</p> <p>また、3月8日付けで4月分通学定期券のご案内を送付し、4月からの運用に向け、進めているところです。</p> <p>通学定期券については、原則1日から月末までの1ヶ月通学定期券を基本としていますが、3、6ヶ月の通学定期券を購入されても補助の対象にいたします。</p> <p>また、近鉄バスの通学定期券購入に際しては、四条畷駅前では月に1日しか購入できないため、購入できない方のために、学校を通じて市教育委員会で取りまとめて購入する郵送販売を近鉄バスと連携のうえ、対応してまいります。</p> <p>次に、通学路の安全対策における防犯カメラにつきましては、ご要望のあった15ヶ所についてすべて設置し、2月1日から稼働いたしました。路面標示につきましても、2月末までに4ヶ所ともすべて工事が終了いたしました。人的配置につきましては、シルバー人材センターと委託契約を締結し、年度当初より運用いたします。</p> <p>最後に、現四條畷南中学校区から四條畷中学校へ新たに通学する生徒数につきましては、新1年生は84人、新2、3年生は140人、計224人が次年度より新たに四條畷中学校へ通学することとなります。また、四條畷西中学校へ新たに通学する生徒数は、計7人となります。</p>
<p>都市整備部上席主幹</p>	<p>続いて、四條畷南中学校の敷地内活断層調査についてご報告いたします。</p> <p>現状としましては、活断層調査を実施する調査業者と契約を行ったところであり、調査に向けた準備を進めているところでもあります。なお、調査完了日は平成30年7月末を予定しております。</p> <p>以上です。</p>
<p>市長</p>	<p>ただいま、休校に伴う諸課題と活断層調査について事務局から説明がありました。</p> <p>これらについて何かご意見等があればと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>(意見なし)</p> <p>ありがとうございます。</p> <p>活断層調査に加えまして、今年度に教育委員会で実施いただきま</p>

したアンケート調査、また、現在市長部局で実施している公共施設等劣化診断調査あるいは市役所内のプロジェクトチームがございまして、各施設の利用状況であったり公共施設を一体でとらえながら、結果を総合的に勘案し、山本委員ご指摘の3つの課題、校区のねじれ、校舎の老朽化、小規模校化並びに子どもたちの心的負担への配慮を踏まえつつ、市民の皆様の意見を伺い、総合的に勘案しながら、なるべく早期に方向性を見出したいと考えておりますので、引き続きよろしく申し上げます。

これを持ちまして平成29年第5回総合教育会議を終了したいと思っております。

ありがとうございました。